



地域の就労継続支援A型事業所と連携することで、障害者が地域と繋がりをもって働ける場を創出するとともに、安定した作業賃金確保や、一般就労への移行を支援しており、様々な地域活動にも参画することで地域の活性化にも寄与。

基本情報

- 所在地：宮城県松島町
- 団体名：有限会社 F・F磯崎
- 選定表彰：－
- 主力商品：生かき、水稻、さつまいも、かぼちゃ、トマト、きゅうり、なす、玉ねぎ 等
- 取得認証等：認定農業者



生かき



露地野菜ほ場

取組の概要

- 半農半漁が生業の松島町磯崎地区において、就労継続支援A型事業所「松島のかぜ」から約20名の利用者を受け入れ、約60haの農地で水稻やさつまいもの栽培、牡蠣養殖を実施。
- 地域の農協、漁協、中小企業からの委託業務を請け負い、「松島のかぜ」の利用者と受託先の従業員の協同作業などを実施している。
- 農産物の加工施設と利用者の休憩場を併せて整備し、農産物の付加価値向上と作業環境の改善を実施。
- 地域活動にも積極的に参加しており、酒屋・酒蔵・8つの旅館と連携した「特別純米酒いやすこ」の共同生産活動では、原料の「ひとめぼれ」を減農薬栽培し提供している。



畑の除草作業



整備した加工場



生かきの共同むき身作業



酒造りプロジェクト

体制図

農業法人
有限会社 F・F磯崎

連携

一般社団法人 松島のかぜ
(A型事業所)

企画運営班
(企画、運営、事務処理 等)

水田農業班
(水田農業の指導、管理 等)

畑作農業班
(畑作農業の指導、管理 等)

農産加工班
(農産物加工の指導、管理 等)



取組の成果

- 利用者が地域で働く環境を創出することで、担い手が不足している農業、漁業労働力の確保、経営の安定化に貢献し、地域産業の衰退の歯止めとなっている。
- 海上作業には手当を支給するなど、安定した作業賃金確保に努め、F・F磯崎から利用者に対し、月額平均4～5万円の賃金を支払っている。
- 特別純米酒の共同生産が縁で、各旅館から米、野菜、生かき等の直接受注を受けるようになり、経営の安定化につながっている。

所在地 ▶ 宮城県宮城郡松島町磯崎字磯崎101

連絡先 ▶ TEL:022-355-1136 E-mail：－

ウェブサイト ▶ <https://ffisozaki.jimdofree.com>

【取組のプロセス】

平成25年

農福連携の取組開始

きっかけ

高齢化が進み著しく農家数が減少するなか、東日本大震災による離農の増加と地域内の労働力不足に対応するため、就労継続支援A型事業所「松島のかぜ」と連携し農福連携の取組を開始



整備されたほ場で作業する利用者

平成28年

復興基盤総合整備事業（H28～R2）

復興基盤整備を契機とした農福連携の取組拡大

- 平成28年度から令和2年度にかけて復興基盤整備事業の工事が実施され、地域内の震災で甚大な被害を受けた農地の大区画化と集積、集約が図られた。F・F磯崎は磯崎地区の大部分を耕作する地域の担い手となり、利用者の就業機会が拡大。

令和2年

農山漁村振興交付金農福連携対策（R2～R3）

農山漁村振興交付金農福連携対策の活用

- 農福連携整備事業では、農産物加工場、休憩場所、トイレ等を整備し、利用者の就労環境が大幅に改善されるとともに、就労拡大も実現できる状態となった。
- 農福連携支援事業では、作業マニュアルの作成、農業生産・加工技術研修、先進地視察、地域交流会等を実施し、組織の一体感、生産活動への意欲が高まった。
- 様々な地域のイベントにも積極的に参加し、中心的な役割を担う。



農産物加工の研修

令和5年

農産物の6次産業化商品開発

取組の継続と発展

- 就労継続支援A型事業所利用者からの受け入れ人数は令和元年の15人から令和4年には22人に増加。利用者はこの期間に8名が一般就労に移行。
- 加工施設では、かぼちゃやさつまいものペーストを試作し、近隣の飲食施設等へ提供しており、今後は牡蠣やさつまいもなど加工品の商品化等も視野に取組の拡大を図る。



加工場とかぼちゃのペースト

今後の展望

農福連携によるさつまいも、とうもろこしの本格栽培、加工開始

経営の安定と障害者の就労機会の確保を目指して

- 農産物加工品の開発、販路開拓等を進めて経営の安定を図り、最低賃金としていた障害者の賃金の更なる賃上げを目指す。
- 地域交流イベント等に積極的に参加し、障害者の地域との繋がりを創出するとともに、磯崎地区の活性化に寄与する。



地域イベントへの参加



就労継続支援B型事業所として3箇所の農場を経営し、有機野菜の生産・体験農場、稲作・竹細工、平飼い自然養鶏など、幅広い取組を実施し、農業のフィールドを生かして障害者の働きがい deepening している。

基本情報

- 所在地：茨城県つくば市
- 団体名：NPO法人ユアフィールドつくば
- 選定表彰：茨城県ドリームプランプレゼンテーション最優秀賞、人間力大賞グランプリ農林水産大臣賞、T Y O P（世界の傑出した若者10人）
- 主力商品：季節の野菜セットの販売
- 取得認証等：認定農業者



春の野菜セット



野菜栽培に取り組むスタッフ

取組の概要

- 地域の約15haの荒廃農地を活用し、毎日約100名の障害者が、水稻（5.5ha）、野菜（8ha）の栽培、養鶏（1,300羽、0.7ha）などに従事。
- 農福連携技術支援者研修の研修農場としての受け入れや、企業への研修の受け入れ等を積極的に実施し、農福連携の取組を発信。
- 見学会、イベントの開催、体験農園（0.8ha）の設置等、近隣住民と交流できる企画を多数実施。



田んぼ



イベントの様子



平飼い養鶏

体制図

NPO法人
ユアフィールドつくば

ごきげんファーム
(就労継続支援B型
3事業所)

ひだまりベース
(グループホーム)

ブルーフロッグ(放課
後等デイサービス)

ハイク(訪問看護ス
テーション)

取組の成果

- 道具や作業行程を工夫し、様々な障害のある利用者が作業しやすい環境づくりに取り組むことで、障害のある利用者も主体的に関われ、就職につながる利用者も多い。
- 茨城県の平均工賃月額（15,201円）を上回る工賃（25,000円）を実現。
- 荒廃農地を活用し、農地面積は、平成23年度の1.2haから令和4年度には15haに拡大。

所在地▶茨城県つくば市大角豆2168-1
連絡先▶TEL:029-875-5660 E-mail:ー
ウェブサイト▶<https://yf-tsukuba.com/>

【取組のプロセス】

平成23年

農業者の不足
障害者の働く場所
の不足

地域の課題解決に
取り組む

きっかけ

議員インターシップに参加し、農業と福祉双方の問題を知り、自分事を感じたことから、この問題に関わりたいとの思いから「ごきげんファーム」を設立

ごきげんファームの設立

- 農業者の後継者不足、障害者の働く場所が不足していることを解消したいと考え、「ごきげんファーム」を設立。



ごきげんファーム

近隣地域との連携

- 障害者の工賃の向上を目標に取り組んでいたが、障害者や家族が望んでいるのはそれだけではないことを知り、暮らしの場や遊べる場、地域住民と交流できる機会を増やしていくことにシフト。
- 意識的に近隣地域への販売を増やし、そこでできた繋がりが深まっていくように定期的に夏祭りや収穫祭などのイベントを開催。
- 令和元年にはグループホームの運営を新たに開始し、障害者の暮らしの場を確保。



秋の収穫祭

令和4年

近隣地域約200世帯に季節の野菜セットを販売

活動の拡大

- 茨城県の平均工賃月額（15,201円）を上回る工賃（25,000円）を実現。
- 1.2haの農地から活動を開始し、荒廃農地を再生しながら、令和5年度には15haの耕地面積で農作業を実施。



耕作地

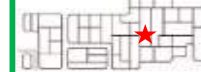
今後の
展望

幅広い農業への取組

- 地域にとって本当に価値ある農業のフィールドを作っていくことで、一緒に活動する人を増やしていく。
- お弁当の販売、カフェの開設等を予定しており、不登校の子供たちの居場所づくりや、子ども食堂、マルシェ、障害者家族向けのサロンの開催などに取り組み、地域住民が様々な形で関われる場にしていく。



収穫の様子



障害者の自立支援と雇用創出を目的に農業に参入。荒廃農地の再生による耕作面積の拡大と労働力確保による新作物の栽培等を実現。新商品を開発し、地域イベントへ出店・販売することで生産や販売意欲が向上。

基本情報

- 所在地：岐阜県岐阜市
- 団体名：株式会社LSふぁーむ
- 選定表彰：－
- 主力商品：葉物野菜（サンチュ、ベビーリーフ等）、ヌマダイコン、米、玄米加工品、野菜加工品
- 取得認証等：総合化事業計画認定、JGAP取得



主力商品のベビーリーフ



農福の圃場で栽培した野菜を使用した餃子

取組の概要

- 機械設計業、人材育成業を営む企業の農業部門として農業参入。グループ内の就労継続支援A型事業所に農作業を委託。
- 農業や6次産業化製品の製造などの各作業ごとに障害者の中からリーダーを任命、商品開発にも障害者が従事。
- 障害者が働きやすいように、柱やパイプの無いエアドーム式ハウスを平成27年に開発。
- 労働力を確保できたことにより、荒廃農地で葉物野菜、絶滅危惧種の「ヌマダイコン」や特別栽培米の栽培を実現。
- 地域の特別支援学校と農業体験できる機会を設けて農業振興を発信し、農業を通じて地域交流を行う。



ハウスでの作業風景

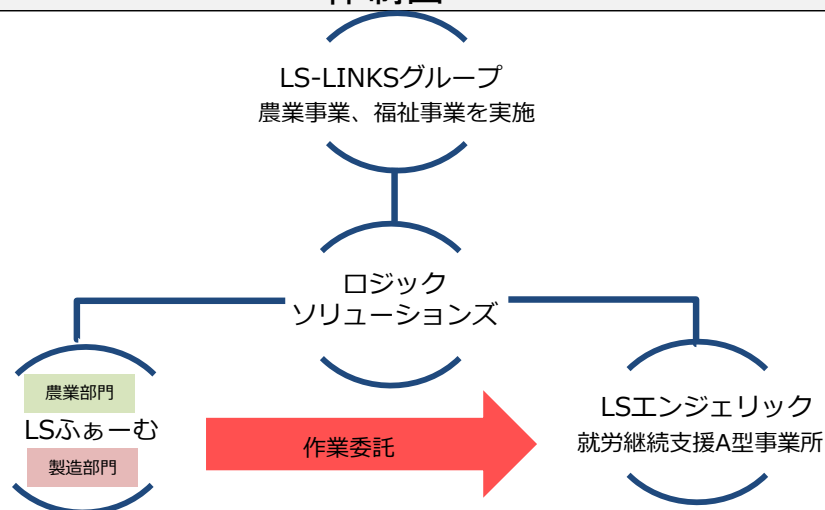


絶滅危惧種のヌマダイコン（ハーブ）



障害者が加工施設で製造した玄米だんご

体制図



取組の成果

- 平均賃金月額は平成23年の約6万7千円から令和5年の約8万円へ増加。
- 農地面積は平成23年の20haから令和5年の42haと2倍以上に増加。
- 農業や販売に携わる中で地域住民と交流する機会が増え、生産や販売意欲の向上につながり、これまでにグループ内の就労継続支援A型事業所から6名が一般就労に移行。
- 取組の輪が広がり、隣県の障害者が生産した農産物とコラボした商品を開発。

所在地 ▶ 岐阜県岐阜市藪田南1-11-9

連絡先 ▶ TEL:058-213-0711 E-mail:ogawa@ls-farm.com

ウェブサイト ▶ <http://www.ls-farm.com/>

【取組のプロセス】

平成22年

(株)ロジックソリューションズの農業部門として設立
平成22年に法人格を取得

きっかけ

障害者のための自立支援と雇用創出の場として、また労働力不足の解決策としてスタート。

農業生産及び6次産業化における農福連携を開始

- 個人のスキルや個性に適した仕事を与え、作業毎にリーダーを任命することで仕事に対する責任感とやりがいが増える。
- 製造方法を記載した手順書の作成や、一目でわかるように資材置き場にガイドをつけることで、誰でも作業を行うことができるように工夫。
- 平成25年6次産業化推進整備事業を活用し、農産物加工施設を整備。玄米だんごの増産設備が整い、障害者と連携して製造開始。



6次産業化推進整備事業で整備した加工施設

平成24年

6次産業化推進整備事業（農林水産省）の活用

エアドーム式農業ハウスの開発

- 平成27年に「エアドーム組立式技術特許」を取得。エアーで膨らませるハウスであり、柱やパイプが存在しないため、怪我のリスクを軽減。
- 夏場のハウス作業は冷風扇やミストを設置し、熱中症対策を講じている。



エアドーム式農業ハウス

令和元年

絶滅危惧種ヌマダイコンの栽培スタート

農福推進事業の活用

- 絶滅危惧種である「ヌマダイコン」を守るため、栽培保護・栽培技術を確立。また、岐阜県の令和4年度農福連携推進活動緊急対策事業において、ヌマダイコンを加工するための機械類を導入し、新商品を開発。



障害者と一緒に販売会を行ったときの様子

令和4年

農福連携推進活動緊急対策事業（岐阜県）の活用

ハツシモの特別栽培開始

全ての人が分け隔てなく働き、持続可能な社会へ貢献する

- 地域の祭りやイベントに積極的に参加することで、障害をもった人に対する理解を地域に広める。
- 地域の農地保護のために契約農地の拡大を行い、同時に障害者の雇用を拡大する。
- ノウフクJASやぎふ清流GAPの取得による販路拡大に取り組み、障害者の賃金向上につなげる。



食育活動

今後の展望



ハウスでのいちご栽培を中心とした農作業を通年で実施。県内の障害福祉サービス事業所で初めて、いちご生産でASIA GAP認証を取得。高品質ないちごを生産することで、県農業の担い手として期待。

基本情報

- 所在地：三重県松阪市
- 団体名：社会福祉法人 まつさか福祉会
- 選定表彰：－
- 主力商品：いちご（ASIA GAP認証）
- 取得認証等：ASIA GAP認証



ASIA GAP
認証登録証明書

取組の概要

- 知的障害者、精神障害者の16名で農作業・加工作業に取り組む。
- ハウス35aでいちごを生産。約2.5haの露地でナバナ、金ゴマ、ニンニク、カボチャ等を生産。いちごジャム等への加工にも取り組む。
- 離農した農業者から借り受けたいちごハウスに、平成25年度「『農』のある暮らしづくり交付金」(農林水産省)の補助を受け、高設栽培システムを導入し、持続力がない障害者が作業しやすくしている。
- 農薬散布のため、虫の写真などをハウス内に貼ることで、利用者に害虫について知ってもらうとともに、品質管理への意識向上を図っている。



主力のASIA GAP認証いちご

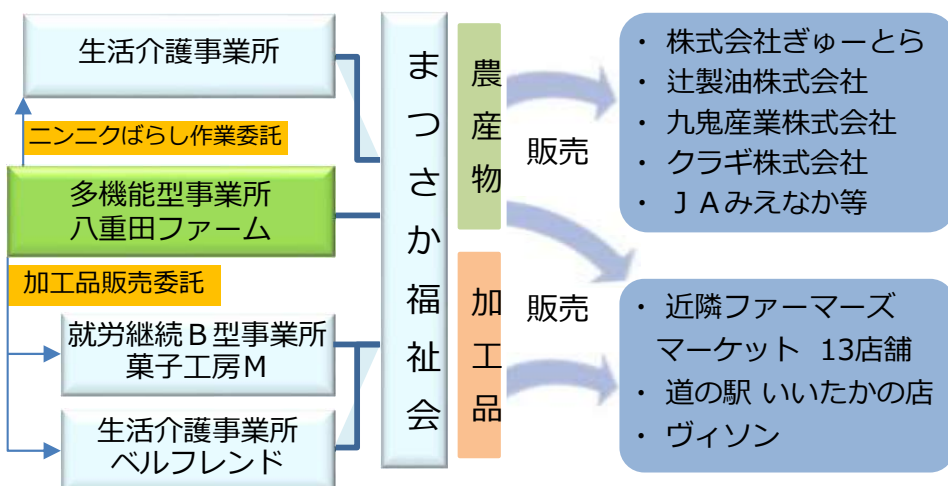


ナバナの収穫作業



いちごの収穫作業

体制図



取組の成果

- 平成30年度には、県内の障害福祉サービス事業所で初めて、いちご生産でASIA GAP認証を取得。
- いちごの品質が認められ、平成30年には国際線機内食にも採用。
- いちご導入当時より利用者ができる作業が増え、収穫作業にも従事。
- 農地面積が25a（平成30年度）から3ha（令和5年度）に増加。県内大手スーパーと直接取引を開始。
- 就労継続支援B型事業所の利用者の平均工賃月額は取組当初の約25,000円（平成27年度）から約38,000円（令和5年度）に増加。生活介護利用者に対しても13,000円から15,000円を支給（令和5年度）。

所在地 ▶ 三重県松阪市八重田町31-6

連絡先 ▶ TEL:0598-63-1551 E-mail:mu-yaeda@mctv.ne.jp

ウェブサイト ▶ <https://mukaiyaebell.or.jp/office/yaeda.html>

【取組のプロセス】

荒廃農地の増加で
農地の借入が可能
になった

平成16年

隣町のいちご農家
が減ってきており、
空きハウスを借用

平成18年

『農』のある暮らしづくり交付金
(農林水産省)を受ける

平成20年

高齢化の波があり、
近隣ハウスを借用し
規模拡大

平成25年

ヤマト財団「ス
テップアップ」助
成金を受ける

平成26年

いちごジャム作り
をスタート

令和2年

今後の
展望

きっかけ

利用者と屋外での作業がしたいという思いから、
法人理事の農地等を借り、25aの農地からスタート

いちご栽培を本格化

- 離農したいいちご農家から、ハウスを借り受けて栽培を開始。
- 八重田町・隣町との交流（夕涼み会・収穫祭に参加）も始まる。

いちごハウスの倍増

- 地域農家にいちごの品質といちご栽培の技術が認められる。
- 平成25年～令和5年にかけて4軒の農家のハウスを借入。
- 収入はいちご栽培を始める前と比べ4倍以上となった。
- 県内の医療少年院の在院実習生を受け入れて、さらなる農福連携への取組を強化。

農産物の加工製造を開始

- 衛生面に配慮できるメンバーにより、規格外のいちご等を使ってジャムを製造。
- 地元業者との連携や、子供会の芋ほり用のさつまいもを無償で提供する等の地域貢献も行っている。

加工作業の強化

- 色々な作物を出荷目的ではなく練習目的で栽培しており、生産性・採算性・作業性を考えて方針を決めようとしている段階。今後は農作業が苦手な人への職種の選択肢を増やすため、加工作業を強化していく。



地域の理解により拠点を整備



35aのハウスでいちごを栽培



紅はるかを焼き芋にし、いちご、ブルーベリー、キウイと組み合わせた
こだわりジャム



ドライフルーツ
左：いちご、右：かき



障害者目線の職場環境や作業手順に配慮し、九条ネギをメインとした野菜の生産に取り組むとともに、障害者や就労困難者の雇用、就労支援にも積極的に取り組む。

基本情報

- 所在地：京都府京都市
- 団体名：株式会社しんやさい
- 選定表彰：
 - ・ 障害者雇用優良事業所表彰（令和5年度）
 - ・ 優良勤労者表彰（令和5年度）
（京都府知事）
 - ・ 中小企業ミライ絵日記アワード2023 審査員賞
（（一社）ちいきん会・（一社）スマートニッチ応援団 共催）
- 主力商品：九条ねぎ、長なす、金時人参、聖護院大根、聖護院かぶ、新京野菜等
- 取得認証等：認定農業者
京都はあとふる企業認証（京都府）
S認証（（一社）ソーシャル企業認証機構）

取組の概要

- 新規就農者として障害者雇用を行った際に、障害への理解不足で当該職員が退職した経験から、相手の立場に立つことの重要性を認識し、その後、障害者雇用を本格的に開始。
- 社員4名のうち、障害者2名と元ニート1名を正規雇用し、全員に最低賃金以上を支給。
- 車いすや手押し車でも収穫体験ができるようにほ場を整備しているほか、障害者でも理解しやすい農作業マニュアルを作成するなど、障害者が働きやすい環境を整備。地域の福祉事業所や特別支援学校に野菜や花の種を提供し、共同で栽培を行っている。
- 職業訓練により正規雇用ステップアップした障害者職員が企業在籍型職場適応援助者の資格を取得し、若手障害者職員を指導。
- 地域の加工業者や販売業者と連携し、規格外野菜を活用した加工品の生産を開始。
- 自社による週に一度の飲食営業を開始し、収益向上や廃棄ロスの削減に貢献。



農園スタッフと実習生



車いすでの収穫体験

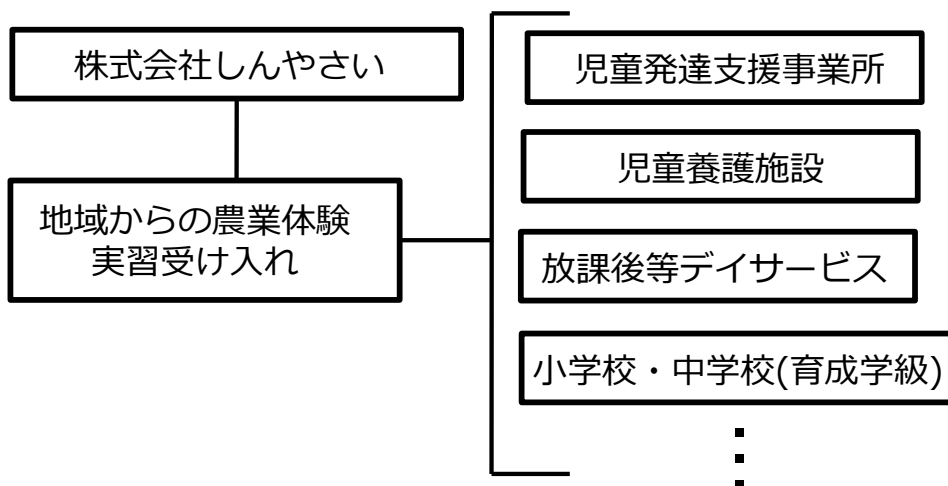


各作業のマニュアル作成



京野菜と加工品

体制図



取組の成果

- 障害者を受け入れたことで、労働力不足が解消。障害者に配慮した作業の見える化をすることで、障害者以外の農作業も効率化。
- 近隣の荒廃農地を新たに借り受けて規模拡大（平成27年:72a→令和4年:約300a）を図り、新たな品目を作付けできたことで収益が向上。
- 障害者だけでなく、多様な人々の農業体験・実習の場となっている。
- 障害者に配慮した職場環境や、作業の見える化を行うことにより、障害者以外の作業の効率化も実現。

所在地▶農園：京都府久世郡久御山町西一口新道北46 / 事務所：京都市南区
 連絡先▶TEL:075-682-8622 E-mail:info@shinyasai.kyoto
 ウェブサイト▶<https://www.shinyasai.kyoto/>

【取組のプロセス】

平成29年

福祉サービス事業所からの申し出があったことから、施設外就労として連携を開始

平成30年

障害者雇用を開始。一度は失敗するも京都府の就農相談員からの紹介で継続

令和2年

代表が、農福連携技術支援者として認定

令和5年

京都府知事より
・障害者雇用優良事業所表彰
・優良勤労者表彰を受賞

今後の展望

きっかけ

京都市で新規就農し、九条ねぎ等の栽培を通じ、地域の福祉事業所との連携や障害者雇用により、生きづらさを抱えた人財の農業分野での活躍の可能性に気付いた

九条ネギをメインに多種多品目の野菜の生産にチャレンジ

- 就農当初、人手不足もあり、研修先農業法人の元同僚(障害者)を雇用したが、障害者への理解不足のまま接してしまい、半年程で退職。
- 2人目の障害者雇用時は、当事者の希望に寄り添い無理のない働き方（週1回半日勤務）でスタート、徐々に時間や日数を伸ばし、重要な戦力として勤務。

障害者目線の農福連携の取組を実践

- 拠点ハウスの男女別トイレの設置、特別支援学校からの実習の受け入れを皮切りに、地域のこども園・児童養護施設・小学校・中学校・高等学校・高等技術専門学校・大学・大学院・放課後等デイサービス・子ども食堂・ボーイスカウト等と連携し、収穫体験や職場体験実習を実施するなど、地域内交流を進めている。
- 地域の社会福祉協議会が主催する認知症カフェ利用の高齢者や身体障害者等に対し、車椅子や手押し車でも収穫体験ができるよう配慮。

障害者等を積極的に受け入れ、雇用条件充実のため法人化

- 地域の廃業した銭湯を活用し、週に1度の規格外野菜を多用したランチ営業をスタート、農作業体験だけでなく、調理実習や接客体験もプログラムに追加。
- 障害のある社員が、企業在籍型職場適応援助者の資格を取得、自身の経験も踏まえ、同じ立場で支援（ピアサポート）する取組をスタート。
- 障害者等が自身の経験を活かして、障害者雇用セミナーやシンポジウム、ニート・ひきこもり支援の交流会等で積極的に登壇、体験談等を話すことで様々な業種での理解が深まり、多様な人々が働きやすい職場環境の創出につながっている。

農福連携の推進、ロールモデルになる

- 農福連携の取組についてPRし、販路の拡大を図ると共に、障害福祉サービス事業所とのコラボ商品（加工品）を開発、ノウフクJASやGAPの取得を目指す。
- 障害等のある社員が、支援を受ける立場から支援する立場へキャリアアップを図り、農業分野でのロールモデルとして、他の農業者や地域での農福連携の推進を目指す。



福祉サービス事業所と九条ねぎの定植作業



特別支援学校からの実習受け入れ



京都式農福連携啓発マンガ



実習生と一緒にマルシェでの販売



新規就農後、自ら就労継続支援A型事業所を設立し、障害者に農作業を安定的に担ってもらうことで農地面積を拡大するとともに、利用者の将来の就農を目指す。

基本情報

- 所在地：岡山県岡山市
- 団体名：株式会社おおもり農園
- 選定表彰：－
- 主力商品：いちご・冷凍いちご／香料・着色料不使用のカクテル用シロップ／業務用いちごピューレなど
- 取得認証等：ノウフクJAS（令和3年取得）、認定農業者

取組の概要

- 平成14年にいちご農家として新規就農し、平成23年にはNPO法人杜の家及び就労継続支援A型事業所「杜の家ファーム」を設立。現在、障害者約18名のうち6名から10名が施設外就労でいちご栽培等を行う。
- いちごは年間作業時間が特に長い作物であり、夫婦二人の作業では限界があったが、育苗から収穫までの期間に障害者の特性に応じた作業を振り分けることで、苗の生産から株の手入れや防除も行うことが可能となり、規模拡張と労働時間の短縮を実現。



収穫前のいちご



いちご植え付け作業



パック詰めされたいちご

体制図



出荷場の様子

ハウス内の様子

いちご出
荷作業

いちご管理
作業

ユニット

ユニット

おおもり農園

業務委託

作業指導

情報共有

杜の家ファーム

取組の成果

- 自らが障害福祉サービス事業所を設立することで、作業者を安定的に確保できるようになり、作業負担が軽減。休日を取得できるようになった。
- 経営に余裕が生まれた結果、離農した農業者からハウスを引き継ぎ、経営面積が約35aまで増加。
- 作業の見える化によって、異常発生時の問題点が明確になり、指示が障害者に的確に伝わるようになった。
- いちご栽培の安定的な請負とその他の施設外就労との組み合わせにより、令和4年度の平均賃金月額は88,000円を超え、県内就労継続支援A型事業所の平均（86,271円）を上回る。

所在地 ▶ 岡山市中区兼基111-1

連絡先 ▶ TEL: 086-279-8391 E-mail: info@npomori.com

ウェブサイト ▶ <https://omorifarm.jp/>

【取組のプロセス】

きっかけ

中国四国農政局主催のシンポジウム「クローズアップ農の福祉力」に参加し、障害者の受入れを決意

平成14年

小さな農家は親の介護や自身の体調不良で栽培規模の縮小や経営そのものの存続が難しいことを実感

農業の開始

- 平成14年 岡山市中区にいちごハウス10aを竣工し、兼業農家として事業開始。
- 平成15年 いちごと葉物野菜で専業農家となる。



いちご苗の手入れを行う利用者

平成21年

農林水産省 都市農業機能発揮対策事業・福祉農園地域支援事業の活用

農福連携を開始

- 平成21年 障害者施設より施設外就労の受入を始める。
- 平成23年 就労継続支援A事業所杜の家ファームとして障害者雇用を開始。



いちご株管理を行う利用者

令和元年

平成30年
西日本豪雨災害

いちご農家として地域の農地を受け入れ

- 平成27年 高齢による離農いちご農家施設受け入れ。
- 平成28年 都市農村機能発揮対策事業及び福祉農園地域支援事業によるいちご栽培施設完成。
- 平成30年 西日本豪雨により被災し、一部復旧を断念、コロナ禍により葉物野菜生産から撤退。
- 令和3年 いちごでのノウフクJAS取得。
- 令和4年 新たに取得した荒廃農地を開墾し経営規模を拡大。



音声選別機による選果作業

今後の展望

令和3年度
日本農林規格ノウフクJASを取得

将来の地域農業の後継者を育てる

- 障害者にはただ作業をしてもらうだけでなく、将来の地域農業の後継者になれるような様々な農業技術について指導を実施。
- 農福連携の活動を多くの方に知ってもらうことで農業の発展に寄与したいと考えている。



パック詰め作業



障害者の周年就労が可能な水耕栽培に取り組むとともに、障害者や高齢者、地域住民が集えるコミュニティセンターの運営や、交通手段を持たない高齢者への無料送迎、地域のお祭りの復活など様々な地域貢献活動を実施。

基本情報

- 所在地：大分県大分市
(福祉農場コロニー久住所在地：大分県竹田市)
- 団体名：社会福祉法人博愛会
- 選定表彰：
 - 平成18年 大分合同新聞文化賞
((株) 大分合同新聞社主催)
 - 平成24年 毎日社会福祉顕彰
(毎日新聞 (株))
 - 平成27年 藍綬褒章 (理事長個人 内閣府)
 - 令和3年 愛護福祉賞 ((公財)日本知的障害者福祉協会)
- 主力商品：お米、サラダ野菜、ドレッシング、ジャム、漬物等
- 取得認証等：6次産業化認定事業者

取組の概要

- 障害者が周年就労可能なサラダ野菜の水耕栽培等に取り組むとともに、生産した農産物を活用した食品加工場やレストラン、地域コミュニティセンター等で、障害者の特性に合った活動場所と就労先を創出。
- 職員や利用者が主体となり、地域住民の高齢化により10年以上開催されていなかった地域のお祭りを「都野夏まつり」として復活させるなど、地域貢献事業等にも積極的に取り組む。
- 交通手段を持たない高齢者を対象とした無料送迎車をNPO法人や他の社会福祉法人と連携して巡回させ、地域コミュニティセンターでの入浴の機会や、地域食材を利用した弁当の提供などを実施。



水耕栽培による野菜生産



「都野夏まつり」の様子

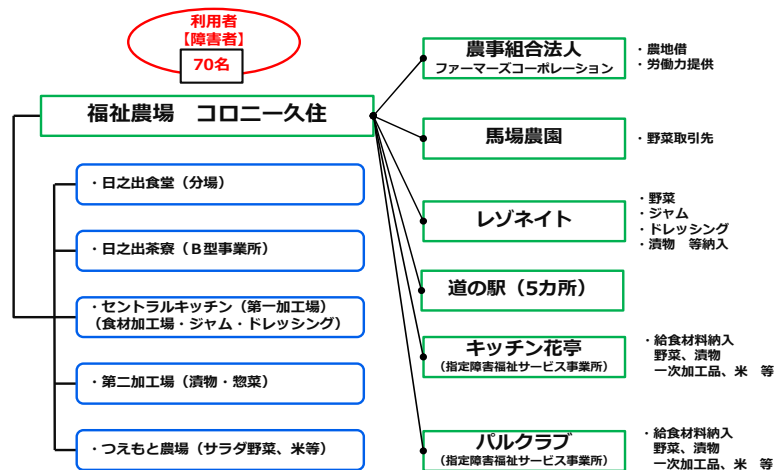


セントラルキッチンでの農産物の加工



生産した農産物を利用した無料惣菜バイキング

体制図



取組の成果

- 障害者の特性に合った活動・就労先の創出、周年就労が可能なハウスでの水耕栽培品目への取組等により、工賃の向上及び就労者が増加。
- 農産物加工では6次産業化と「日乃出」ブランド化を行い、直営レストランなどへの食材提供とも相まって、農福連携関連の売上が大幅に増加。

	取組当初	令和5年 (見込み)
・年間工賃 (千円)	36	3,700
・年間従事障害者 (人)	60	520
・売上総額 (千円)	3,252	37,300

所在地 ▶ 大分県竹田市久住町大字有氏896番地14 (福祉農場コロニー久住)

連絡先 ▶ TEL:0974-77-2344 E-mail:pal-2941@oct-net.ne.jp

ウェブサイト ▶ <https://hakuai-oita.com/>

【取組のプロセス】

昭和50年

利用者と職員は農作物を自分達の手で育て、収穫する喜びを知る。当初の主力生産品となったトマトは1日の出荷量3トン規模に

きっかけ

「農福連携」という言葉がない昭和50年に「知的障害の方にとって大自然の中で、季節の移ろいを肌で感じることができる農業が最も心身の安寧につながる。」との考えで、竹田市久住町に「生産する福祉」を目指して入所授産施設「福祉農場コロニー久住」を開設

農産物加工場（漬物加工）が完成

- 当初の主力生産品である高原トマト、白菜、大根、高菜等の農産物を漬物加工品として商品化。
- ジャムやドレッシングの製造販売も開始し、地元の道の駅や直営店舗での販売や、法人内外のレストランや給食センターに提供。



漬物の製造シールを張る利用者

平成9年

高齢・過疎化の進む地域に対し、農産物を活かして地域貢献事業として何かできることは？

コロニー久住分場「日乃出食堂」を開設

- 「み～んなが元気に集う食卓」をコンセプトに、地域の中心地に「障害者、高齢者、地域住民が気軽に集える健康レストラン」としてオープン。
- 施設農場や地元の新鮮食材を加工しお惣菜として提供する「おばんざい」が大好評に！



古民家の趣の日乃出食堂の内観

平成28年

人口減少により飲食店が衰退していく中、皆が憩える場所をつくり町を元気づけたい！

地域交流サロン「日乃出茶寮」（就労継続支援B型事業所）を開設

- 「ひとりになっても安心して暮らせる町づくり」を目指し、障害者支援施設が運営するコミュニティサロンでは高齢者、障害者、こどもたちが天然温泉や食事、カラオケ、各種教室等を利用できるよう整備。
- 館内のホールではコンサートや大衆演劇公演を開催するほか、こども食堂等のイベントを毎月開催。



日乃出茶寮の舞台・ホール内観

令和2年

NPO法人ククルを設立。日乃出茶寮を拠点として地域高齢者の無料送迎活動に取り組む

今後の展望

博愛会の職員・利用者が下支えしながら、地域の住民を巻き込んで「みんなが主役」の夏祭りを復活開催

～ 町をもっと元気に、にぎやかに ～

- 学校、病院など公共施設が集中している「コンパクトシティ」の利点を活かし、法人の各施設が地域社会と有機的、人材的に連携し、地域活性化に向けた取り組みを進める。
- 「町をもっと元気に、にぎやかに」をモットーに、障害者が地域の一員として自分らしい暮らしをしながら町の活性化に携わるといった地域共生型の社会を目指す。



日乃出茶寮でのイベントの様子